

松本高山Big Bridge構想の取組沿革

2018年～国立公園満喫プロジェクトとして中部山岳国立公園南部地域の利用推進の取組がスタート

2018年4月 「中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2020」を策定。
プログラムの中で南部地域のエリア区分を8つに明確化し、利用推進の取組を開始。

利用動線としての起点は、必然的に松本と高山の市街地になることから、プロモーションの一環で利用動線を地図上に落とす際に、松本と高山の市街地を結んだものの提案を開始。長野県・岐阜県は国内の地域区分でも関東甲信越地方と東海地方ということで区分されており、プロモーションにおいても両地域をまたいで発信することは一部を除いて、これまであまりされてこなかった。しかし、地域内では連携を模索・実施してきた経緯もあり、一体的な連携については地域の意識は高い状況にあった。

2021年3月 二代目「利用推進プログラム」である「中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2025」を策定。

作成過程において、中部山岳国立公園南部地域を世界水準の国立公園として認知されるための手法として、この中部山岳国立公園に指定された北アルプスをまたぎ、松本と高山をつなぐ動線を大きな架け橋(Bridge)に例えて、ルート上にある3,000m級の山岳やそれにより育まれた自然環境と共生してきた文化を、ストーリーをもって一体のエリアとして発信し磨き上げることが重要であると、利用推進協議会において協議の上合意された。そのような経緯から、利用推進プログラム2025のメイン事業として、「松本高山Big Bridge構想」への取組が2021年3月に正式決定した。

※構想名については、当初は松本高山Long Bridge構想としていたが、長さより大きさを表すBigを用いることとなり、「松本高山Big Bridge構想」となった。

2021年4月 「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクトチーム発足会合」を経て、プロジェクトが開始。

2021年4月、本構想の実現を目的にプロジェクトチームを発足。これよりプロジェクトチームにおいて、ワークショップ・会合を重ね、具体的な計画を詰めていく作業が行われる。

また、関連する事業として、「上高地・沢渡・平湯トライアングル検討」、「乗鞍岳Beyond Border Project Team」や「持続可能な観光地域を目指すための検討ミーティング(サステナブル検討)」等も同時に検討を開始した。

2022年5月 「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクトチーム会議」にてプロジェクト全体の方向性を示すビジョン・ストーリーが承認された。

それにより、「松本高山Big Bridge 構想実現プロジェクトチーム ビジョン・ストーリー等決定会合」にて、コロナ禍ではあったが、約1年間をかけて策定した基本計画が承認され、会合同日(2022年5月27日)に上高地にてビジョン・ストーリーの発表イベントを実施し、基本計画に則った情報発信やルートの磨き上げ等の取組がスタートした。



中部山岳国立公園を間に挟んだ、松本から高山間に広がる

魅力的な自然・文化・人、そして暮らし。

古くから関わりのあるこのふたつのエリアを、もう一度つなぎなおし、

世界に誇れる観光圏として磨き上げていきたい・・・。

関係者の想いを形にしようとしているこのプロジェクトのことを、

地域の皆さま方にも知っていただきたい、関わっていただきたい。

そんな想いから、このファクトブックを作成しました。

よろしければ是非お手に取って、私たちが目指していることをご覧ください。

そして、少しでもご興味や関心、共感をいただければ幸いです。

発行：(一社)松本市アルプス山岳郷／松本高山Big Bridge構想実現プロジェクトチーム

(松本市アルプス山岳郷、松本観光コンベンション協会、奥飛騨温泉郷観光協会、飛騨乗鞍観光協会、飛騨・高山観光コンベンション協会、長野県観光機構、岐阜県観光連盟、アクティビティ事業者連合、アルピコ交通株式会社、濃飛乗合自動車株式会社、松本市、高山市、長野県、岐阜県、国土交通省 北陸信越運輸局／中部運輸局、環境省 中部山岳国立公園管理事務所)

HISTORY

松本・高山つながりの歴史

中部山岳国立公園南部地域を間に挟む松本～高山間は、明治初期には「筑摩県」として長野県南部～飛騨地方を含む1つの県でした。

県庁は松本城に置かれ、支庁を高山陣屋に設置されましたが、その歩みはわずか5年程で、第2次府県統合により長野県・岐阜県に分かれていきました。

しかしながら、松本～高山間には、野麦街道やブリ街道など、人と物資の交流は頻繁にあり、昭和28年に国道158号として施行されより人々の往来がしやすい環境が整備されていきました。

そのような背景の中、昭和46年には、中部山岳国立公園を絆に相互繁栄を誓い、松本・高山両市が姉妹都市提携の盟約を結び、今日に至っています。

そして、令和3年度には姉妹都市提携50周年の節目を迎え、両市民のさらなる交流の促進や、「松本高山Big Bridge構想」の実現等により、国内外から選ばれ続ける持続可能な観光エリアとして共に栄えていけるよう取り組んでいくことについて共同宣言を行いました。

特に、両市に跨る中部山岳国立公園南部地域の中でも、とりわけシンボリックな存在とも言える上高地は、国内で2か所しかない「特別名勝」と「特別天然記念物」の称号を与えられ、明治42年頃から100年余り続いている自然保護意識が根付いています。

両市共有の“宝”でもある上高地は、長く守られ、また登山者や観光客等に利用をしていただくという持続可能性の観点からも、このエリアの象徴と言えます。

私たちは、過去からのつながりや共有している資源(=宝)を、もう一度つなぎなおし、松本～高山をひとつのエリアとして、観光や暮らしが活性化される取り組みを進めていきたいと考え、このプロジェクトを立ち上げました。



中部山岳国立公園を間に挟み
歴史的にもつながりの深い
松本・高山を
もう一度つなぎなおし
ひとつのエリアづくりをめざす

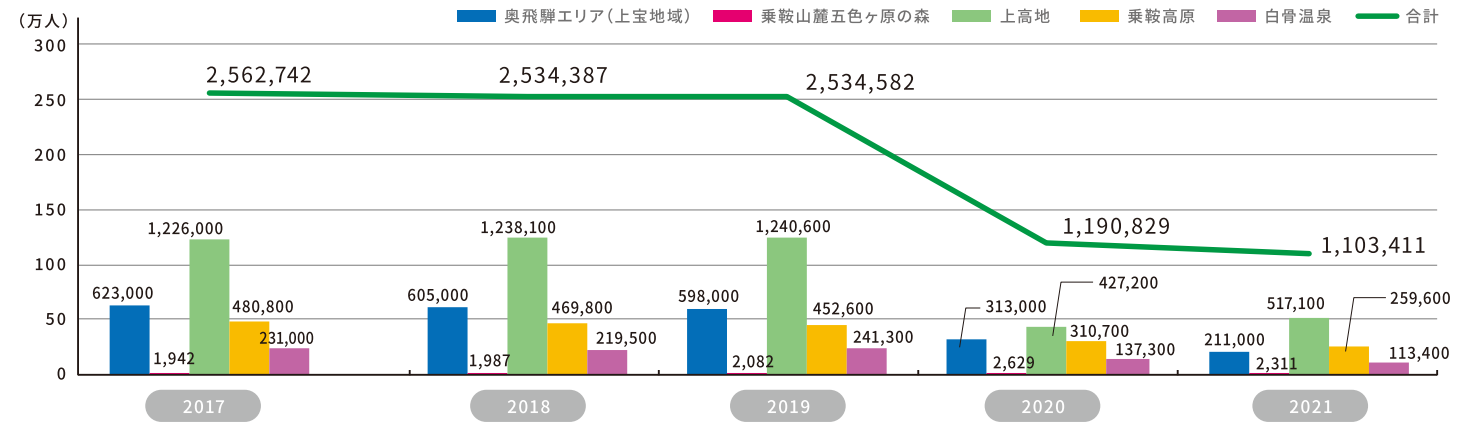
Destination DATA

これまでの観光誘客実績から見る松本・高山

コロナ前まで堅調に入込客数が伸びていた松本・高山両市街地だが、山岳エリアとの連携は希薄でした。ポストコロナを見据え、山岳エリアを含めた松本・高山の観光を一体的に活性化していくことの必要性が共通理解となり、プロジェクトがスタートしました。

山岳エリア

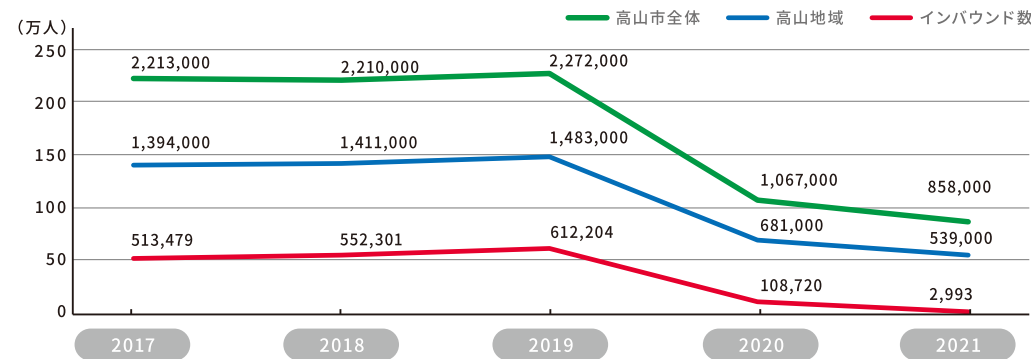
コロナ前まではほぼ横ばいだった山岳エリアの入込客数ですが、コロナ禍で山岳エリアの利用数は半数以下に減少。特に上高地では、2019年と2020年を比較すると約65%減と大幅に減少してしまいました。また、同じ山岳エリアでも奥飛騨温泉エリアはコロナ前から徐々に宿泊者数が減少してしまっており、周辺の上高地や乗鞍山麓の利用者の宿泊につながっていないことも課題です。



上高地・乗鞍高原・白骨温泉は延利用者数、奥飛騨エリアは宿泊者数、乗鞍山麓五色ヶ原の森は利用者数の数値となります。
出典：松本市観光地延利用者数(観光入込客数)データ/高山市観光統計データ

高山

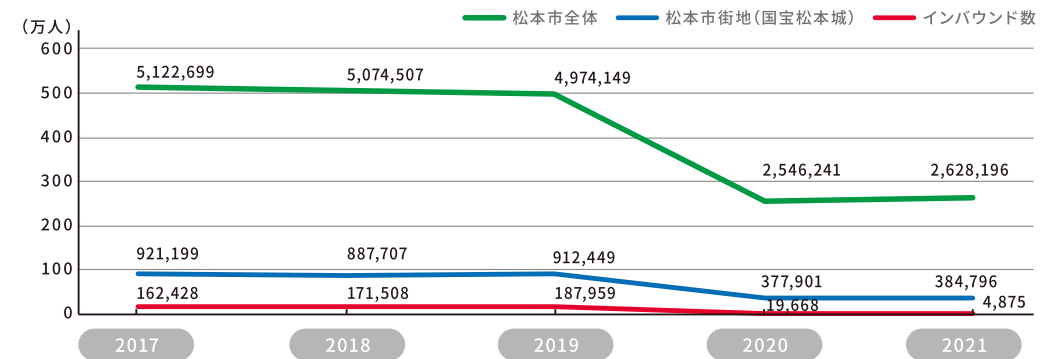
高山市はコロナ前まではインバウンドを中心に宿泊者数が増加していましたが、コロナ禍で半数以下に減少しました。インバウンド需要の回復とともに、一体的な消費増加が求められています。



数値は延宿泊者数から算出されています。出典：高山市観光統計データ

松本

松本市全体では、コロナ前から観光入込客数は徐々に減少していました。一方でインバウンドの利用は増加傾向にありましたが、コロナ禍で半減してしまいました。



数値は観光地延利用者数から算出されています。出典：松本市観光地延利用者数(観光入込客数)データ

Chubusangaku National Park DATA

中部山岳国立公園の利用状況から見る

特に、松本～高山間の自然観光のアイコンでもあり、両市の観光資源の源流でもある中部山岳国立公園を含む山岳エリアはリピーターの割合が高く、山岳エリアのコアなファンがいることも事実。これらのお客様がもう1泊、もう2泊して、松本高山を一体的に楽しんで頂く提案ができれば、エリア全体として潤っていくことも可能ではないか？そんな想いを持つ関係者が集まり、プロジェクト内部の議論が進んでいきました。

中部山岳国立公園南部地域の月別利用者数の推移

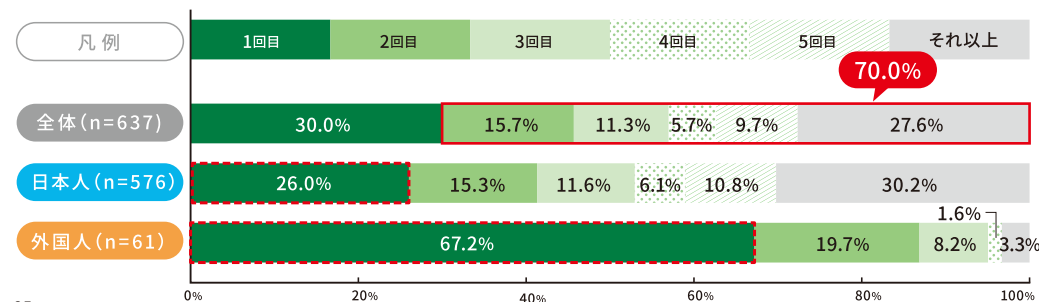
日本人利用者

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|-----------|
| 2019年 | 20,997 | 24,570 | 16,572 | 58,705 | 158,471 | 86,478 | 140,878 | 240,862 | 154,468 | 902,002 | 156,238 | 64,075 | 15,419 | 1,137,733 |
| 2020年 | 29,600 | 23,425 | 10,168 | 1,283 | 2,516 | 11,776 | 18,552 | 118,807 | 100,227 | 316,354 | 165,143 | 65,218 | 9,732 | 556,448 |
| 2021年 | 2,997 | 3,680 | 9,868 | 15,032 | 40,782 | 25,831 | 100,619 | 106,860 | 83,517 | 389,186 | 156,026 | 53,337 | 10,723 | 609,271 |
| 2022年 | 11,873 | 7,804 | 9,321 | 26,402 | 120,135 | 79,227 | 138,085 | 199,418 | 128,192 | 720,458 | — | — | — | 720,458 |
| 2022年/2019年 | 57% | 32% | 56% | 45% | 76% | 92% | 98% | 83% | 83% | 80% | — | — | — | 63% |
| 2022年/2021年 | 396% | 212% | 94% | 176% | 295% | 307% | 137% | 187% | 153% | 185% | — | — | — | 118% |

外国人利用者

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 合計 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|---------|
| 2019年 | 25,310 | 31,380 | 15,708 | 31,134 | 58,113 | 37,194 | 50,374 | 59,414 | 47,068 | 355,695 | 56,830 | 25,428 | 23,246 | 461,200 |
| 2020年 | 33,806 | 19,650 | 2,169 | 299 | 208 | 797 | 804 | 3,235 | 3,366 | 64,334 | 4,154 | 2,893 | 1,843 | 73,224 |
| 2021年 | 160 | 155 | 109 | 224 | 715 | 518 | 1,649 | 1,717 | 1,336 | 6,583 | 2,751 | 796 | 280 | 10,409 |
| 2022年 | 448 | 305 | 250 | 267 | 859 | 664 | 1,090 | 1,446 | 1,081 | 6,411 | — | — | — | 6,411 |
| 2022年/2019年 | 2% | 1% | 2% | 1% | 1% | 2% | 2% | 2% | 2% | 2% | — | — | — | 1% |
| 2022年/2021年 | 280% | 198% | 230% | 119% | 120% | 128% | 66% | 84% | 81% | 97% | — | — | — | 62% |

中部山岳国立公園南部地域への訪問回数



中部山岳国立公園南部地域の利用の質の推移

「利用の質」に関する数値目標(日本人利用者)

| | 環境省全国調査 | | 南部地域独自調査 | | 目標値 (2025年度) | 達成率 |
|-------------------------------|-----------------|---------|----------|---------|-----------------|-------|
| | 基準値 (2018年度) | 2019年度 | 2021年度 | 2022年度 | | |
| 平均宿泊日数(周辺地域を含む) ^{※1} | 2.3泊 | 1.6泊 | 1.5泊 | 1.4泊 | 3.3泊 | 42.4% |
| 【参考】平均宿泊日数(公園内) ^{※2} | 1.8泊 | 1.3泊 | 1.3泊 | 1.1泊 | — | — |
| 1人あたり消費額 | 41,509円 | 33,311円 | 35,797円 | 41,102円 | 50,000円 | 82.2% |
| 国立公園であることの認知度 | 71.6% | 76.7% | 73.1% | 76.2% | 80% | 95.3% |

「利用の質」に関する数値目標(外国人利用者)

| | 環境省全国調査 | | 南部地域独自調査 | | 目標値 (2025年度) | 達成率 |
|-------------------------------|-----------------|---------|----------|---------|-----------------|-------|
| | 基準値 (2018年度) | 2019年度 | 2021年度 | 2022年度 | | |
| 平均宿泊日数(周辺地域を含む) ^{※1} | 3.5泊 | 2.7泊 | 1.5泊 | 1.7泊 | 4.5泊 | 37.8% |
| 【参考】平均宿泊日数(公園内) ^{※2} | 1.6泊 | 1.3泊 | 0.9泊 | 0.9泊 | — | — |
| 1人あたり消費額 | 68,038円 | 56,697円 | 34,597円 | 45,429円 | 80,000円 | 51.6% |
| 国立公園であることの認知度 | 79.2% | 71.4% | 49.0% | 52.5% | 80% | 65.6% |

※1) 平均宿泊日数は、日帰りも0泊として計算に含み、周辺地域および公園内における延べ入泊数を算出し、利用者数で除することで平均宿泊日数を算出。
 ※2) 平均宿泊日数(公園内)は数値目標ではないが参考地として掲載している。

2022年の月別利用者数を2019年・2021年の9月までの合計と比較すると、日本人利用者では、2019年の約8割まで回復しており、また、2021年の1.8倍となってきています。また、利用者の7割はリピーターであり、新規のお客様の誘客が大きな課題でもあります。さらに、滞在日数や消費額等をまずはコロナ前の水準に戻しながら、松本～高山を一体で楽しんで頂くことでさらに底上げをしていくことで国立公園利用と保護の好循環づくりをめざしています。

Our HOPE

環境省・行政機関・地域の観光団体の想いからスタートしたプロジェクト

松本市
アルプス山岳郷



アルプス山岳郷の顔でもある上高地や槍穂高だけでなく、山岳郷を含めた一体的かつ長く長期的な滞在をすすめるお客様が増えることに期待します。加えて、周辺のエリアと風通しの良い面的な取組をどんどん進めていきたい！

松本観光
コンベンション協会



北アルプスの玄関口と言われる松本市は、3つの「ガク都」（「岳都」「楽都」「学都」）として発展しております。その魅力をこの地域を訪れる多くの観光客に発信する橋渡しとして期待をしています。

飛騨乗鞍
観光協会



乗鞍岳だけでなく、丹生川地区の食・遊・里山の魅力を再確認して頂き、乗鞍岳・奥飛騨エリア・高山の市街地エリアへの観光とセットでプランニングして頂けることを期待します。そのために各エリアと連携して、面として認知されるよう取り組んでいきたいです。

中部山岳国立公園を中心とした松本高山Big Bridgeエリアは、豊かな自然に恵まれ、他の地域に無い「伝統・文化」が残っている世界に誇れる貴重なエリアである。今後、地域全体で一体感をもって、世界に向けてプロモーションが出来るとう良い。

濃飛バス



高山市



松本市と高山市の姉妹都市提携も半世紀以上を迎える中で、松本高山Big Bridge構想を契機として、県境を超えた新たな観光圏の確立をはじめ、国内外の多くの観光客の皆様が当エリアを訪れ、両地域全体の経済的な発展や活性化が図られることを期待します。

松本市



世界に冠たる山岳リゾートを目指している中で、中部山岳国立公園を核として姉妹都市である高山市と手を携え、両市一体となった観光振興を進めます。この取り組みにより、世界中の来訪者がこの地域の唯一無二の自然の魅力を体験していただき、持続可能なエリアとなることを期待しています。

環境省
中部山岳国立公園
管理事務所



日本国政府として、日本の国立公園を世界水準の国立公園に引き上げる目標を掲げています。中部山岳国立公園は、日本を代表する山岳の国立公園。ここで出来なければ、どこが出来るのか！この構想は、世界水準の国立公園を実現するものです！

アルピコ交通



日本屈指の山岳景勝地であるこの地が世界水準の山岳リゾート地へと磨き上がり、より一層の発展に期待しています。そして、四季を問わず多くのお客様で賑わい、満喫してほしいです。

飛騨・高山観光
コンベンション協会



ロマンあふれる観光地「飛騨高山」とさわやかな高原のまち「信州松本」の間の懸け橋となる新たな取り組みのプロジェクト。新しい観光の景色を造り出してくれるものと思います。しっかりとした連携の中で素晴らしい地域となるよう互いに向上していきたい！

奥飛騨温泉郷
観光協会



中部山岳国立公園を舞台とした、県境を超えた取り組みを行うことで新たな観光経済圏の樹立とともに、当該地域における滞在時間の延長と消費を促すことを目標として、地域連携を図っていきたい。

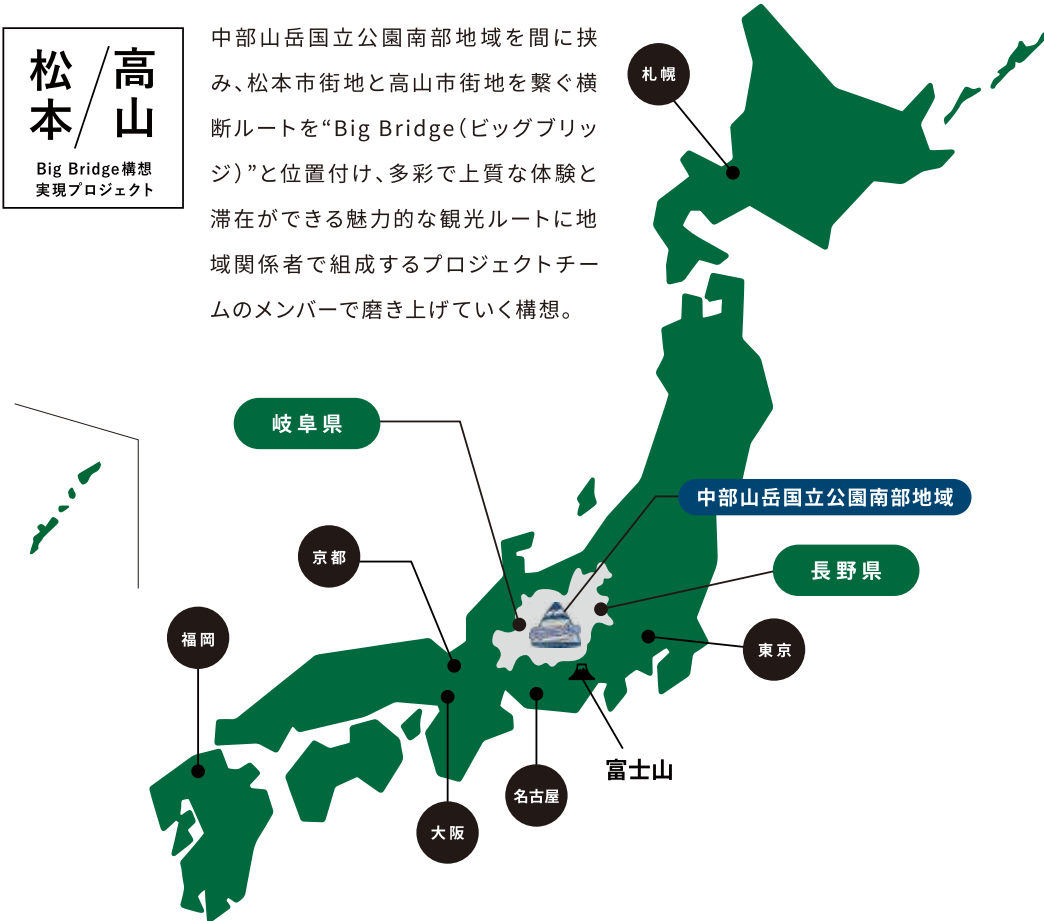
ABOUT

松本高山Big Bridge構想とは？

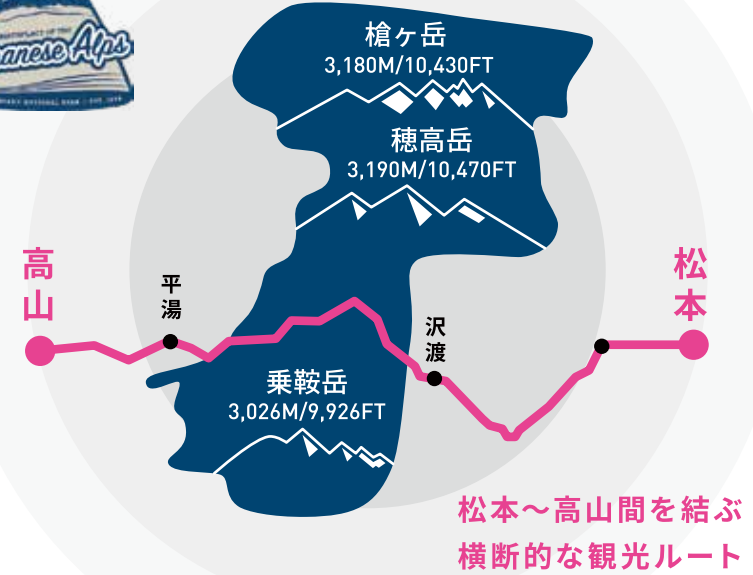
松本 / 高山

Big Bridge構想
実現プロジェクト

中部山岳国立公園南部地域を間に挟み、松本市街地と高山市街地を繋ぐ横断ルートを“Big Bridge(ビッグブリッジ)”と位置付け、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光ルートに地域関係者で組成するプロジェクトチームのメンバーで磨き上げていく構想。



中部山岳国立公園南部地域



この観光ルートは、松本・高山を起終点にしながら、移動距離約70kmから好きなだけ、好きな移動方法で、様々な楽しみ方を提案していくもの。松本城、古い歴史街並み3000m級の山岳、高原アクティビティ、温泉、里山など、日本最高峰の“日本の屋根・北アルプス”と松本高山という2つの中都市がコンパクトに集結しているエリアだからこそ提供できる魅力づくりを進め、地域一体となった新たな観光圏の確立をめざしています。

高山



観光ノ飛騨高山(国際日本文化研究センター所蔵)

松本



松本市を中心とする日本アルプス大観(国際日本文化研究センター所蔵)

VISION

松本高山Big Bridge構想実現により、私たちが旅人に提供したい地域の価値

私たちは、自らの人生を営むこの地域が、日本列島で最大級の標高差があり、かつ、日本アルピニズム発祥の地であることの誇りを持ち、3000m級の急峻な山々とその恵み、四季を身近に感じる暮らし、自然への畏敬の念から発せられる文化を通じて、松本～高山間を横断する旅人がいつ、どこを訪れても、新しい発見・体験・驚き・探究心を得られるよう、エリア一体となって提供します。

これにより実現したいのは...

#01 環境への貢献

自然との良い付き合い方を、
旅人と私たち住人がお互いに学び合うこと。

#02 人生への貢献

旅人に滞在して良かった、また滞在したい、
とっていただくこと。

#03 社会への貢献

旅人と私たち住人それぞれが
持続可能になること。

新しい発見・体験をしたい
驚きに出会いたい
探究心がある
そんな旅人が通りたくなる
日本横断のブリッジルートをめざして



STORY

松本高山Big Bridge構想実現の先にある、この地域での新たな旅の過ごし方

ようこそ、日本横断のAlpine × City Wonderlandへ
-Discover, Explore, Experience in this Bridge Route-

さあ、日本最高峰の山へ、川へ、森へ、町へ。
あなたらしい生き方を探しに行こう。

信州・松本～飛騨・高山を横断する旅は、
標高差約2400mの世界に広がる、山・自然・人・文化から学ぶ物語。

日本アルピニズム発祥の地である、北アルプスの山脈に広がる、いきものあふれる美しい自然。日本の東西の分水嶺でもあり、圧倒的な標高差にあって、人と自然の営みが交錯することで生まれた多様な歴史と文化。日本の国立公園ならではの四季彩は、日本最高峰の峰々にこそ広がっている。この地を訪れることは、日本人と自然の共生の歴史を知ることにつながり、また、あなたの人生を豊かに彩り、あなたらしく生きるヒントが詰まっている。

例えば、大地のエネルギーが詰まった温泉や自然の力を体全体で感じる散歩で、ココロとカラダを健全に保つためのヒントが。

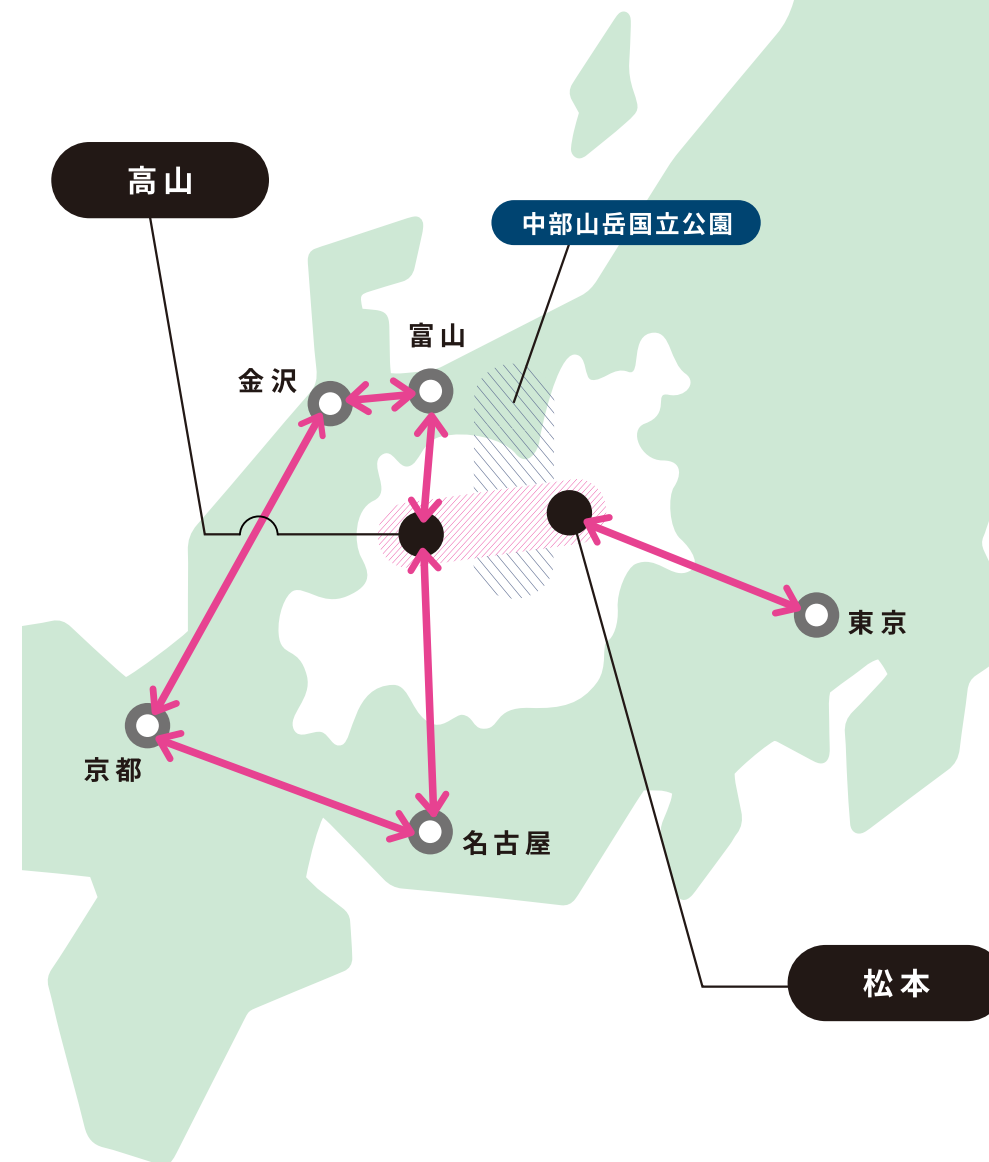
例えば、あまりに多様な自然の中で生きていくための仙人の知恵に触れることで、持続可能な社会や暮らしを探るためのヒントが。

例えば、日本最高峰の山々への挑戦やこれまで知らなかった生活文化体験で、人生に向き合うきっかけ・自分磨きのターニングポイントとなるようなヒントが。

信州・松本～飛騨・高山を結ぶAlpine×City Wonderlandを旅することは、人生に役立つ“小さな”、けれども“重要な”カギを探しに行くようなものだ。

この先にあるのは・・・

広域的な日本観光の中心ルートへ



Experience

海外訪問者向け 松本・高山のモデルルート

主に海外のターゲット層に楽しんで頂く資源やモデルルートを設定し、お客様をお迎えしていきます。

ROUTE 1

〈テーマ〉

日本のアルパイン文化に触れる旅(登山・山小屋・温泉・暮らし・文化)

A trip to experience Japan's alpine culture



ターゲット

アクティブなアウトドア体験を好む欧米層

特に山登りやトレイル等への興味・関心が強く、様々な知識欲への欲求も高いインバウンド欧米層へアプローチ。

コンセプト

To discover Japan, explore its alpine roots

(日本の他の地域にはない)3000m級の山々が形成する北アルプス登山から学ぶ、日本人と自然との共生文化。その裾野に広がる、異なる泉質の温泉と、自然を活かした様々な体験を通じて感じる日本文化。

コアになる体験

- レベルに応じた北アルプス登山(岳沢・焼岳・槍ヶ岳・酒沢...etc)
- 山岳ガイド・山小屋泊から得る共生の学び
- 里山で美しい自然をめぐるガイドウォーク(五色ヶ原の森)
- 松本/高山市街地での伝統文化体験(木工・民藝)

旅の種類

リレーションの旅 / 学びの旅 / 自己実現の旅

モデルコース

DAY
1

松本

松本到着
[宿泊]松本市内(松本ホテル花月)

DAY
2

松本

白骨

松本市内散策
[宿泊]白骨温泉(山水観湯川荘)

DAY
3

山岳エリア

白骨～山岳エリア(初級・中級・上級)
[宿泊]域内山小屋

DAY
4

山岳エリア

山岳コース(初級・中級・上級)
[宿泊]域内山小屋

DAY
5

上高地

奥飛騨温泉郷

山岳コース～上高地～奥飛騨温泉郷へ
[宿泊]奥飛騨温泉郷(山里のいおり草円)

DAY
6

五色ヶ原

奥飛騨温泉郷

五色ヶ原の森をガイドと一日じっくりトレッキング
[宿泊]奥飛騨温泉郷(山里のいおり草円)

DAY
7

高山

高山の古い町並み散策
高山駅解散

Experience

国内訪問者向け 松本・高山のモデルルート

主に国内のターゲット層に楽しんで頂く資源やモデルルートを設定し、お客様をお迎えしていきます。

ROUTE 2

<テーマ>

北アルプスの自然と人々の営みから学ぶ旅

心身ともに持続的・恒久的・継続的な安らぎを感じる体験の連続



ターゲット

自己研鑽や健康意識の高い都市圏在住女性層

特にご褒美旅や癒し等への興味・関心が強い、働き盛りの20~30代ミレニアル世代の都市圏在住女性層へアプローチ。

コンセプト

自然の価値を、絶景、ゼロカーボン、温泉から学び・感じる

3000m級の山々が連なる北アルプスの裾野に広がる里山と都市の文化に触れながら、松本側ではカラダを使うアクティビティを、高山側ではココロを癒すアクティビティをそれぞれ楽しむことで明日を生きる活力を得る。

コアになる体験

- 上高地の絶景を眺めながらゆったりハイキング
- 高原の中をマウンテンバイクで疾走
- 標高3000mの山岳登山に挑戦
- 悠久の歴史を感じながらお寺で瞑想体験

旅の種類

癒しの旅 / リレーションの旅 / 学びの旅

モデルコース

松本

DAY
1

松本駅到着
市街地での散策に加え、近隣の里山でワイナリーや温泉街を散策
[宿泊]松本民藝に囲まれた宿(松本ホテル花月)

上高地

DAY
2

上高地までバスで移動
バスターミナルから明神池までゆっくりとトレッキング
[宿泊]乗鞍高原(プチホテルアルム)

乗鞍高原

DAY
3

乗鞍高原内でNorikura Trailsの体験
自然を活かしながら楽しむ術を体験
[宿泊]乗鞍高原(プチホテルアルム)

乗鞍高原

DAY
4

乗鞍ライチョウルートを楽しみながら乗鞍岳周辺のトレッキング
[宿泊]奥飛騨温泉郷(ホテルひらゆの森)

奥飛騨温泉郷

DAY
5

奥飛騨温泉に広がる日本の原風景を写真に収めながら
地域の歴史・文化を学ぶプログラムに参加
[宿泊]奥飛騨温泉郷(ホテルひらゆの森)

五色ヶ原

高山

DAY
6

早朝から五色ヶ原の森をショートコースで散策
午後は飛騨大鍾乳洞をゆっくりめぐり高山市内へ
[宿泊]高山(ホテルアROUND高山)

高山

DAY
7

飛騨千光寺で座禅や瞑想を楽しみつつ町を散策
昼食後、高山駅解散